

日本の抱えるごみ問題

問 建設課 環境係 ☎62-9114

私たちの生活に欠かせない便利な製品やサービス。しかし、その裏には「ごみ」という大きな問題が潜んでいます。

日本は、世界でも有数の清潔な国とされていますが、実は廃棄物の量は年々増加しています。特に、プラスチックごみや食品廃棄物が大きな課題となっています。

プラスチックは、軽くて丈夫なため多くの製品に使用されていますが、分解されるまでに数百年かかるものもあり、海洋プラスチックの問題や埋立処分場の不足など、利便性の一方で様々な面で問題を抱えています。

このため私たち一人ひとりが、プラスチック製品の使用を見直し、リサイクルを心がけることが求められています。

食品廃棄物についても、日本では年間約1800万トンの食品が廃棄されています。この中には、まだ食べられるものも多く含まれています。また、いわゆる生ごみは水分を多く含むことから、大量の燃料が必要であったり、焼却炉に与える負荷が大きいなど、財政や施設にかかわる問題も深刻になっています。

埋立処分場の不足や焼却炉の老朽化など、ごみ問題は既に「将来の世代」ではなく、「今の私たち」にとって無視できない問題となっています。私たちの生活を守るためにごみを減らす努力が必要です。私たちを取り巻くごみ問題について来月より「資源循環」と「ごみの減量化」の2点から見ていきます。